

平成27年度 第2回 池田市総合教育会議 議事録

日 時：平成27年12月28日（月）午後4時～午後5時

会 場：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：倉田市長、山岸教育委員長、河野教育委員長職務代理者、藤田委員、小林委員、村田教育長

<事務局>

玉手副市長 総合政策部 三好 政策推進課 斎藤、楠田、山田

教育部 阪本、齋藤 教育政策課 鈴木 教職員課 大谷 学校教育推進課 荒河
教育センター 阪 生涯学習推進課 田上 図書館 加藤 中央公民館 榮口

石橋プラザ 東本 歴史民俗資料館 田中

管理部 藤田、亀井 総務・学務課 藤井 保健給食課 塩山

傍聴者：1名

取材者：1名

1. 開会の挨拶

<市 長>

総合教育会議について、法改正により市長が今まで以上に教育行政にもの言えるようになった。今年の6月に第1回が開催されたが、ご承知のとおり12月6日の市長選挙で私が改めて市長に就任させていただいた。その選挙で「教育のまち池田の再生」を掲げ教育日本一を目指すとした。池田市が「教育のまち」といわれて久しいが、改めてどの部分が「教育のまち」と言えるのか。師範学校をはじめ、義務教育課程を支える先生方を輩出した教育機関を有し、一時期は市内の先生のほとんどが師範学校のOBという時代があったが、今は少し変わっている。それはいいが、箕面市、豊中市、川西市と比べてどの部分が突出しているのか。人づくりはまちづくりの原点であり、将来を担う青少年の育成、とりわけ小中学教育、さらに就学前の教育について改めて見直したいと考え、今回会議を開催させていただいた。

以前の市長時代に、これと似たような会議を開催した。「教育問題懇話会」を教育委員会とは別に開催し、教育や就学前教育に参画している方に集まってもらった。また、私が主催して教育委員と市民の対話集会を開催したこともある。それは1つの先駆的な試みであったと思う。

行政のトップとして、教育行政の責任も最終的には市長がもつ。そのような自覚が必要だから法律も改正されたのだと思う。教育長の役割も重要である。委員や私の思いを事務局に聞いてもらい、できるだけ現場に反映させたい。

2. 議事

・池田市の教育について（フリーディスカッション）

<倉田市長>

・フリーディスカッションということで、各委員さんのご意見をお聞かせ願いたい。

<委員>

- ・現状のほそごう学園の開校や中学校給食の開始について、倉田市長はどうお考えなのか。今後重点的に教育委員会として考えなければならないことについて、改めてうかがいたい。

<委員>

- ・教育そのもの以外の部分が問題になってきている。特に子どもの貧困が問題。家庭の経済格差によって教育を等しく受ける権利が阻害されている。池田市は就学援助の比率が大阪府の中で低い方だと思うが、今後どう対処するかが課題である。

<委員>

- ・教育において、学問だけでなく、国全体がグローバル化する中でどの市も英語教育を重視している。しかし英語は伝達手段なので、何を伝えるのか、個々の能力を伸ばしてコミュニケーションがとれるような教育を期待している。
- ・一方、小中学校の教育は人格形成に影響を与えるが、いじめやモラルについては学校と家のどちらが対応するのか、難しい問題。ネットいじめなど、見えないところでの交流が難しい。LINEは23時までなど、池田市独自の規制があってもいいと思う。

<委員>

- ・人口減少で若者が減ると、次世代の科学技術を担う人材が減る。社会のリーダーシップをとるような人材が出てくるのを自然に待っていても、やっていけない状況にある。そのような人材確保の方法を考える必要がある。委員のおっしゃるように、貧困が原因で教育を受けられない、本来がんばることのできる人たちがとりこぼされている。やる気のある人を国が効率よく引き上げるような仕組みが必要である。

<教育長>

- ・事務局の代表として意見できればと思う。これまでも市長部局と教育委員会とは連携しながら教育行政を進めてきたと自負している。毎年教育フォーラムで取り組み内容を報告している。
- ・教育特区の取り組みで英語活動や科学・情報といった普通のカリキュラムとは別の時間を取り入れた。
- ・それを発展させる意味で、小中学校で一貫したカリキュラムに則り教育する連携型の一貫教育に早くから取り組んできた。昨年、全ての学校で連携型の小中一貫教育をスタートした。さらに施設再編として施設一体型一貫教育も進めており、細河、石橋、北豊島の3つの地域で計画が出された。その中で最も早く、今年細河で学園構想がスタートした。今後はほそごう学園を中心に池田市全体に取り組みを広げていきたい。

<市 長>

- ・ご質問にあった教育で何を指すかということについて、いつからとは言えないが、日本一を目指したい。日本一の内容だが、呉服小学校は音楽で何度も日本一に輝いた。クラブ活動、学力、モラル、マナー、または池田市の子どもはほんわかしているというイメージでもかまわない。学力は避けて通れない。一体型教育のハードは今年ほそごう学園でできた。ソフト、中身の充実を来年から図っていただきたい。
- ・1つの方法は、先生の数を増やすこと。私学の中高一貫校の特徴に、スポーツと勉強でクラスを分けたり、勉強では特進A、Sのようなクラスを設けたりすることが挙げられる。公立中学校で特進Sクラスができないかと考えたことがある。以前、近隣の市長とお話したところ、公教育にそこまで求めるのは難しいが、ある単元でなら先生の数を増やし決め細やかな教育は可能であるということであった。現在想定しているのは、新年度に人材確保のための予算5000万円を計上すること。
- ・もう1つの提案は、校区をフリーにできないかということ。東京や全国で成功例と失敗例がある。ほそごう学園を1つのモデルとして、石橋小・中学校でも一体型教育ができないか。そのためには先生の投入が必要である。行財政改革を断行して、どれだけの予算を教育や子育てに回せるか。市長の役割である。
- ・就学前の教育について、どの部局が担うのか。平成27年4月から子ども・子育て支援新制度が開始したが、就学前教育について教育委員会と子ども・健康部が連携し、池田市の特色にできないかと考えている。
- ・中学校給食についても幅広く意見を集めたい。批判的な意見が多いが、それをカバーできる方法はあるのか、お話ができればと思う。
- ・まず、予算をつける点について異論はないと思う。教育長のご意見は。

<教育長>

- ・1人の職員を採用するのに、少なくとも300万円はかかる。何人の職員を確保するのか、ほそごう学園に特化して加配するのか、各校で平等に分配するのも検討する必要がある。支援学級の子どもが増えているが、池田市は他市よりも介助員の手当てが低いといったこともある。

<市 長>

- ・大阪大学の先生から、発達障害の子どもの割合は18%と聞いた。池田市ではそこまでいかないものの、2ケタだとおっしゃっていた。学力よりもその点で現場は苦労しており、給料の関係で辞める介助員もおり残念だという声を聞く。
- ・人材の確保が教育には欠かせないので、5000万円の範囲で取り組んでいきたい。

<委 員>

- ・どこに、何のための加配するのかということを確認する必要がある。支援学級の介助員を増やすためなのか、学力アップのためなのかということが問われると思う。
- ・支援が必要な子どもが多い学校には、ソーシャルワーカーやカウンセラーを含めて加配するなど、何のために加配するかで池田らしさが問われると思う。

<市 長>

- ・どこにお金を使うのか、現場を知っている皆様から逆提案をいただき、もう一度この総合教育会議で検討する必要がある。来年の早い段階で会議をしたい。

<委 員>

- ・市長の特進クラスの話について、クラスを分けるのは問題かもしれないが、放課後にできる子を育てるという考え方があってもいいと思う。

<市 長>

- ・底上げをすることも大事だが、できる子を伸ばすことも大事。たとえば、塾との連携など。いろいろなやり方を検討し、5000万円の枠内でできることをする。

<委 員>

- ・伸びる子は早くから塾に行くが、貧困の子どもたちは行くことができないために成績に差がついてしまう。公で塾の助成というのは変かもしれないが、そのような問題もある。
- ・ほそごう学園をどう伸ばすか。校区を取り払うという案もいいが、他の学校への配慮も必要である。
- ・5000万円について、人件費だけでなく電子黒板など教えやすい環境の整備にも使ってほしいと思う。

<市 長>

- ・塾について、現在、放課後に集まって勉強するという取り組みがあったかと思うが。

<事務局>

- ・5月から池田地域と石橋地域で、中学3年生を対象に地域学習教室を開始した。週1回、年間30～40回開催する。両教室で36名参加し、自学を中心に行っている。わからないところをふくまる教志塾の大学生が教えている。

<市 長>

- ・ICTはどの程度進んでいるのか。石橋小学校で電子黒板を入れたのでは。

<事務局>

- ・石橋小学校では平成21年度から電子黒板を導入。今年度からはほそごう学園でも電子黒板を導入し、それに合わせてデジタル教科書についても予算をつけている状況。他の学校では未導入。電子黒板ではないが、大きなデジタルテレビは各学校にある。

<市 長>

- ・ハード面も必要なところは検討していかなければならない。
- ・電子黒板は今後計画的に導入していくのか。また、石橋小学校のときは国の補助が

あったと思うが、それはないのか。

<事務局>

- ・案だが電子黒板、それに準ずるものを順に導入したい。電子黒板には、導入にもメンテナンスにも費用がかかるので、長期的な視点が必要。
- ・補助制度については確認する。

<市長>

- ・リースも含めて検討してほしい。

<委員>

- ・電子黒板は必ずしもメリットばかりではない。大学の授業では、パワーポイントを見ているだけで手元に何も残らないという話を聞く。使い方による。辞書をめくることが大事と言う議論もある。導入の仕方や使用法はよく考えた方がよい。

<市長>

- ・子どもたちに何が必要かを考え、限られた財源の中で実行していく。1番大事なのはマンパワーの確保。各校に配置すると足りないのでは、あるところに特化しても、他とのバランスを考える。
- ・基礎の教育は特に数学や科学で重要だと思うが、ご意見は。

<委員>

- ・短期的には最新式のものを導入した方が早いですが、教育的には古い原理を身につけた方が応用力が身に付く。
- ・マンパワーはランニングコストのため、設備投資や貧困の子どもなど他の課題とのバランスを考慮しながら長期的に考えることが必要であると感じた。

<委員>

- ・医療現場においても学校においても、文明化が進んでも人間はアナログである。

<市長>

- ・先生の数を増やすことは大事だが、1人1人の質の向上のための研修にもお金をかける必要がある。

<委員>

- ・ほそごう学園をつくる時、校区をなくして新しい特進のような新しいクラスを設け、空いている伏尾台に寮をつくり優秀な人材を育てるといった案が出た。そのような考えも面白いと思う。
- ・中学校給食はどうしても不満が出てくるので、その声を少なくする努力が必要。

<市 長>

- ・伏尾台の地価は他より安いですが、教育に特色を出せば住みたいという人がいるかもしれない。各校の特色や少子化への対応について、教育委員会で柔軟に考えてほしい。

<委 員>

- ・中学校給食は、概ね満足という声を聞くが残飯が多いと聞く。給食センターの老朽化を含めて市長はどうお考えか。
- ・貧困で朝ごはんを食べてこない子がいる。個人的な考えだが、各校で炊飯施設をもてないか。防災的にも炊飯施設があるのはよいと思う。おかずだけを配る給食センター構想があってもいいと思う。確か庄内の学校で、3、40年前に朝食を出していた。

<市 長>

- ・朝食の取り組みは、来年からできるのではないか。やった方がよいと思う。給食センターは建替えが必要。その際、たとえばほそごう学園を自校方式にすることもできる。朝食は学校給食法の栄養摂取基準の問題もあるが、給食のおいしいまちを目指すのもいいかもしれない。

<委 員>

- ・長野県は、陶器を使うことで給食が有名になった。

<市 長>

- ・事務局で今日の話をもとめ、来年度予算に反映させたい。

3. 閉会

- ・次回は1月19日に開催を予定。